

成果情報

マテバシイオガコを培地に用いた鳳尾菇(フイケー)のビン栽培法						
(要約) 鳳尾菇(フイケー)は、ビン口径 80 mmの 850ml ポリプロピレン製広口栽培ビンを用いて、マテバシイオガコ 5 : フスマ 2 : ピートモス 1 : 鹿沼土 1 : コーンコブ 1 の培地組成割合で栽培した場合、1 次発生の子実体収量は 100 g 以上となり、 <u>実用栽培</u> が可能である。						
総合農林試験場・林業部・森林資源利用科	専門	林業	対象	特用林産	分類	指導
資料名：九州森林研究第 55 号 114 ~ 116						

[背景・ねらい]

県北地域に多量に存在する未利用樹種のマテバシイを培地基材(オガコ)とする鳳尾菇(フイケー)ビン栽培を試みた。また、間伐材の利用拡大が求められるスギ・ヒノキについても、検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 培養条件は、暗黒下、庫内温度 18℃、庫内湿度 85% で、菌回りは約 35 日である。発生処理は、菌掻き・注水と 24 時間の低温処理(8℃、85%)であり、処理後 7 日(再度、18℃、85% 及び 200lx、8 hr の太陽灯照射下で培養)程度で子実体の収穫が出来る。
2. 従来試験結果から最も良好な配合比はオガコ 6 : フスマ 2 : 鹿沼土 1 : ピートモス 1 (表 1) で、マテバシイオガコを用いると 61 g の収量が得られる(図 1)。また、スギオガコではマテバシイオガコの約 90% の収量が得られるが、ヒノキオガコではマテバシイオガコの 50% 以下の収量である(図 1)。
3. 使用する栽培ビンは、口径 80 mm の 850ml ビン(広口ビン)が通常口径 60 mm ビン(通常ビン)の使用より収量が 10% 程度多く、有利である(図 2)。
4. コーンコブ(とうもろこしの芯を砕いたもの)の加用効果は大きく、無添加と比べると、1 次収量で 46% の増収が見られる(図 2)。
5. 最も 1 次収量が多い培地組成は、マテバシイオガコ 5 : フスマ 2 : ピートモス 1 : 鹿沼土 1 : コーンコブ 1 の割合であり、広口ビンを用いた栽培で 100 g に達する。

[成果の活用面・留意点]

1. 以上の成果を利用することで、鳳尾菇(フイケー)の栽培マニュアルの作成と実用栽培への指導が可能となる。
2. 菌床きのこ生産者への働きかけを行い、実証栽培を試みる。
3. 消費者への PR のため、調理法についても検討する。

〔具体的なデータ〕

表1 培地比率別菌回り総収量一覧

培地 種類	地 比	栄養剤 (フスマ)	培地添加剤		菌回り 日	総収量 注) g/ビン
			鹿沼 土	ビートモス		
マテバシイ	8	2			47.6	49
マテバシイ	7	2	0.5	0.5	30.8	74
マテバシイ	6.5	2	0.5	1	28.7	73
マテバシイ	6.5	2	1	0.5	34.7	80
マテバシイ	6	2	1	1	34.7	88
マテバシイ	5.5	2	1	1.5	33.6	82
マテバシイ	5.5	2	1.5	1	39.5	62
マテバシイ	5	2	1.5	1.5	46.7	63
マテバシイ	4.5	2	2	1.5	45.2	61
マテバシイ	4.5	2	1.5	2	43.2	76
マテバシイ	4	2	2	2	41.2	70

注) 総収量は1次収量と2次収量を合わせた数字である。

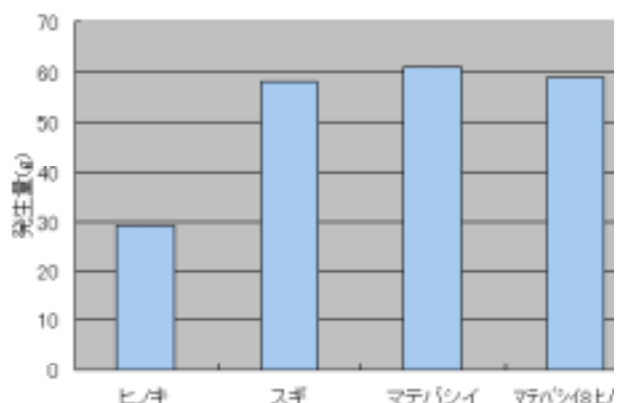


図-1. 樹種別1次発生量(通常ビン使用時):g

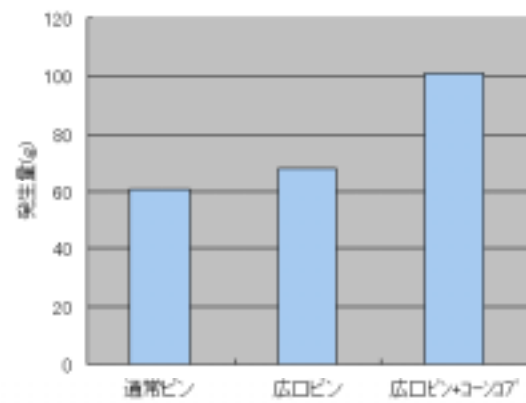


図-2. 形種別 コーンコブ添加剤1次発生量:g

〔その他〕

研究課題名：ニュータイプきのこ資源の利用と生産技術の開発

予算区分：国庫（システム化）

研究期間：平成8～15年度

研究担当者名：永江 修

既発表論文等：九州森林研究第55号114～116